



地域日本語支援ニュース こだま 第 392 号

2020.11.26



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

====目次=====

1■日本で学ぶ■

ウィズコロナの「生活日本語勉強会」

公益社団法人国際日本語普及協会 中村桂子

2■進学進路ガイダンス情報（12月）■

3■お知らせ■

AJALT の著作教材を活用した

「2020年度日本語教師のための教え方講習会」（オンライン）第6弾

=====

1■日本で学ぶ■

AJALT は、ビジネスパーソン、留学生、外交官、年少者などさまざまな学習者のニーズに応じて日本語教育を行っています。また、地元、東京都港区の神谷町で、事務所の隣にあるお寺の一室を借り、週1回平日の晩に生活日本語の教室を開いています。2013年に定住難民（注1）を中心とする文化庁の委託事業として始まりましたが、

一昨年からは自主事業として引き継ぎました。緊急事態宣言の期間は活動が叶いませんでしたが、支援にあたる教師たちが対策を重ね、再び、学習者を教室に迎えています。中村桂子さんにレポートをお願いしました。

.....

ウィズコロナの「生活日本語勉強会」

公益社団法人国際日本語普及協会 中村桂子

◆新しい生活様式

雨が降っても雪が降っても、時には本堂の前の青梅が降っても、7年間、お寺の一室をお借りして生活日本語の教室が、毎週1回、夜6時半から8時半まで開かれてきました。8年目の今年はコロナ禍で休んだ月もありましたが、今は、細心の注意を払って、日本で生活する外国人の対面での「生活日本語勉強会」(注2)が開かれています。

週一のその夕べには、6時過ぎには、教師たちはアクリルパーテーションやフェイスシールドなどを抱えて、お寺に到着し、窓を開け放ち、机を並べ、消毒を始めます。待っていたかのように、虫も明かりを目指して入ってきます。

6時半が近くなると、一日の仕事を終えた学習者たちが皆マスクをつけて次々に現れ、用意された消毒用品を慣れた手つきで使います。教室では念のため、予備のマスクも常備しているのですが、さすがにマスク無しで来る人はいません。

◆教室再開の晩

教室を閉鎖せざるを得なかった期間、Zoomなどでの授業もずいぶん検討されました。それを用意できる環境にいる人はありませんでしたが、長く通っている人たちからは「いつ始まるのか」という問い合わせが何回もありました。

お寺の教室が、大切な日本語の学びの場であること、そして、それ以上に、日本の生活の中での「止まり木」であることを実感し、万全と思われる準備で再開しました。再開した夜は、みな嬉しそうに「ひさしぶり！」と危うく抱き合いかけて、あー、いけないと、踏み止まり、笑い合いました。

◆アクリル板越しのコミュニケーション

長く通ってきている人は、マスク越しになんとか「まるっと」してきている様子がうかがわれ「ともかく、元気でよかった」と、思いました。しかし、新しい参加者たちは、マスク越しの顔しか知らないのも、国籍が同じで年齢が同じくらいで髪型も同じようだと、名前を呼ぶ前に一瞬、どちらがどちらだったか、考えてしまいます。ソーシャルディスタンスをとるというわけで皆離れ離れに座っているので、教師は、右や左に首を振り振り、平仮名などを指導します。アクリルが幾重にも目の前にあるわけですから、学習者の手元の平仮名が、「は」なのか「ほ」なのか、「か」なのか「が」なのか、迷います。

『にほんごえじてん』などを使い、一日の生活を朝から順番に話してもらっていて、「ひげをそります」というくだりがあります。よく勉強する、新しく参加した若い男性が何か言いたそうにしていました。こちらが待っていると、日本語で言おうと努力した挙句、英語で「ひげをそらない」という意味のことを言いました。私が驚いていると、「ほら」という感じでアクリル板のむこうで、一瞬マスクをずらして口元を見せ、すぐマスクを戻しました。確かにひげはありませんでした。少年の顔でした。

国籍も、年齢も、職業も、宗教も異なる人たちが、日本で生きていくために、一生懸命自分の居るところを探しながら、生まれて初めてかけるマスクと共に日本語を学んでいる姿を見ると、一日一日の健康を祈るばかりです。

注1：日本では、1978年から2005年までインドシナ難民を受け入れていました。また、2003年より条約難民、2006年より第三国定住難民の受け入れが始まり、現在も続いています。

注2：2020年の勉強会には、以前から継続の人、新規の人合わせて、アジアやアフリカからの学習者が通っています。転勤で辞めた人や日によって事情

で来られない人もいますが、現在は15名ほどが学んでいます。

6時半にその日の参加者が集まると、まずは皆で「こんばんは。はじめましょう」の挨拶。天気や季節のことなど、皆で話せるトピックでウォームアップをします。そして、日本語の詩や歌を使った活動を全員で行うことから、その日の学習が始まります。今年は明るい気持ちになれるよう、みんなで「パプリカ」を合唱する場面もありました。

全体活動が終わると、トピック学習と文字学習は、レベルに分かれて行います。中級では、新型コロナウイルス感染、都知事選、レジ袋有料化、菅内閣発足などタイムリーなトピックを選びます。初級は、在住期間や学習歴によって二つのレベルを設けています。ある程度日本語ができる人の場合は、文法的なことも少しずつ押さえながら、語彙力をつけて話せることを増やし、苦手なカタカナや基礎漢字の読み書きを学習します。まだ学習が浅い人の場合は、基本的な動詞や形容詞などを学習しながら基礎固めをし、文字は平仮名、片仮名から勉強しています。
